



<定点把握感染症 週報>

疾病名	全国			山形県			山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県)
	第9週	第9週	第10週	増減	第9週	第10週	増減	第9週	第10週	増減	第9週	第10週	増減	第9週	第10週	増減	第9週	第10週	増減	第9週	第10週	
インフルエンザ	9302	123	108	▼	55	60	▲	30	20	▼	13	10	▼	15	11	▼	10	7	▼			5898
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	21790	104	126	▲	19	30	▲	29	35	▲	10	10		27	29	▲	19	22	▲			1870
小児科定点 (定点医療機関数)	4.42	2.54	3.07		2.11	3.33		3.22	3.89		2.50	2.50		3.86	4.14		1.58	1.83				
RSウイルス感染症	3984	15	16	▲		3	▲	4	2	▼				9	7	▼	2	4	▲			122
咽頭結膜熱	774	8	17	▲		6	▲	3	3		1			1	3	▲	3	5	▲			124
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6097	69	119	▲	21	21		9	29	▲	3	2	▼	33	57	▲	3	10	▲			688
感染性胃腸炎	30748	128	238	▲	26	76	▲	40	73	▲	14	5	▼	30	51	▲	18	33	▲			969
水痘	784	12	4	▼	9	2	▼	3	1	▼					1							64
手足口病	157	10	14	▲	9	12	▲		2	▲				1		▼						143
伝染性紅斑	1777	16	36	▲	9	11	▲	3	14	▲				4	10	▲		1				232
突発性発しん	565	7	5	▼	3	2	▼	1		▼	1		▼				2	3	▲			63
ヘルパンギーナ	28	1		▼				1		▼												3
流行性耳下腺炎	112	1		▼							1		▼									7
眼科定点 (定点医療機関数)	0.04	0.04									0.33		▼									
急性出血性結膜炎	28																					0
流行性角結膜炎	509	12	6	▼							12	6	▼									73
基幹定点 (定点医療機関数)	0.73	1.50	0.75								◎12.00	◎6.00										
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	74	2	1	▼	2	1	▼															5
クラミジア肺炎	2																					0
マイコプラズマ肺炎	175	6	2	▼	1	1					3	1	▼				2		▼			75
細菌性髄膜炎	13																					1
無菌性髄膜炎	10																					0

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数
 ※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

<全数把握感染症 週報>

疾病名	報告数					備考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
結核				1	1	
アメーバ赤痢		1				
侵襲性肺炎球菌感染症	1		1			ワクチン接種歴:1回(1)、無し(1)
梅毒		1				
百日咳	7	1				第9週追加報告(1) ワクチン接種歴:4回(8)

<通信欄>

※トピックスで百日咳について掲載しています。
 ※インフルエンザ情報
 第10週における県内のインフルエンザに関する情報は以下のとおりです。
 ○迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数
 A型:96件、B型:12件 (定点医療機関からの報告)
 ○インフルエンザウイルス検出状況(衛生研究所 2024.9.2~2025.3.3)
 今シーズン(2024年36週~)の患者から、
 AH1pdm09が187件、AH3が5件、B型(ビクトリア系統)が
 10件検出されています。

警報・注意報の基準値

疾病名	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
新型コロナウイルス感染症	-	-	-
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。
 ※ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

<定点把握感染症 週報 年齢別報告数>

インフルエンザ/COVID-19定点	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	合計
インフルエンザ	1		7	3	4	7	11	1	7	10	8	34	1	3	108
	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~									
	3	2	3	1	2										
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	合計
	2	5	4	4	2	2	2	3	3	3	5	11	11	8	126
	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~									
	15	16	7	7	6	10									
小児科定点	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳~	合計
RSウイルス感染症		5	5	1	1	1	2	1							16
咽頭結膜熱		3	6		2	2	1	1	2						17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	1	3	13	14	16	22	10	11	8	10	3	6	119
感染性胃腸炎	2	14	22	29	25	19	15	32	13	13	20	28	3	3	238
水痘									1	1	1	1			4
手足口病			1	3	2		7	1							14
伝染性紅斑			2	2	4	5	4	7	3	6	3				36
突発性発しん		1	2	1	1										5
ヘルパンギーナ															0
流行性耳下腺炎															0

<トピックス>

百日咳

2024年の山形県における百日咳の報告数は222人で2018年以降最多の報告数でした。2024年10月をピークに県全体の月別報告数は減少傾向を示していますが、山形市保健所からの報告が続いています。

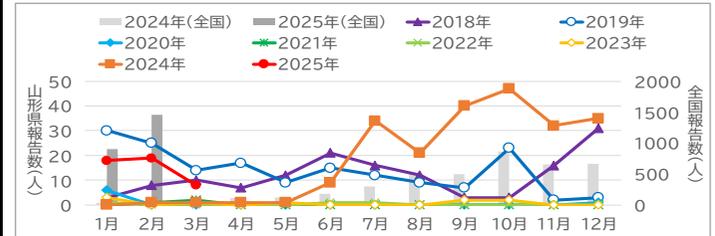


図1 百日咳月別報告数推移 (全国及び山形県7年間との比較,2025年第10週現在)

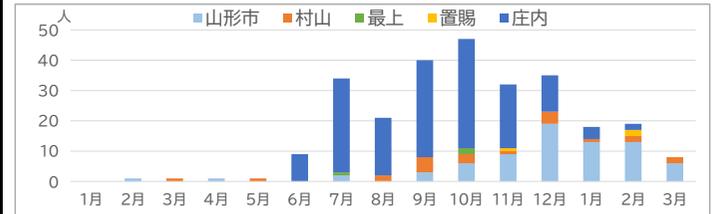


図2 百日咳保健所別報告数 (2024年~2025年第10週現在)

<定点把握感染症 令和7年2月 月報>

2025年3月12日 発行

疾病名		山形県		山形市保健所		村山保健所		最上保健所		置賜保健所		庄内保健所		累積(県)
		1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	
STD定点 (定点医療機関数)		(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数	4	12	1	2	3	9				1			16
	定点当たり報告数	0.40	1.20	0.50	1.00	1.50	4.50				0.50			
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	9	10	2	2	2	1		1	3	3	2	3	19
	定点当たり報告数	0.90	1.00	1.00	1.00	1.00	0.50		1.00	1.50	1.50	0.67	1.00	
尖圭コンジローマ	報告数	2	1									2	1	3
	定点当たり報告数	0.20	0.10									0.67	0.33	
淋菌感染症	報告数	4	1	1		3	1							5
	定点当たり報告数	0.40	0.10	0.50		1.50	0.50							
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	11	4	4	2			1	1			6	1	15
	定点当たり報告数	1.10	0.40	2.00	1.00			1.00	1.00			2.00	0.33	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	11	8	1		1				1	2	8	6	19
	定点当たり報告数	1.10	0.80	0.50		0.50				0.50	1.00	2.67	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数													0
	定点当たり報告数													

百日咳について

特有のけいれん性の発作(痙咳発作)を特徴とする急性気道感染症です。百日咳ワクチンを含む5種混合ワクチンが定期接種で行われていますが、ワクチン未接種者や接種後年数が経過し免疫が減衰した人での発病がみられています。

<感染経路と初期症状>

感染経路は飛沫感染及び接触感染です。通常5~10日間(最大3週間程度)の潜伏期を経てかぜ症状にはじまり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

<治療と予防>

通常、患者からの菌排出は咳の開始から約3週間持続しますが、早期に適切な治療を開始することで服用開始5日後には菌はほぼ陰性になります。普段から「手指衛生」「咳エチケット」「換気」等の基本的な感染対策に努めましょう。



<詳しくはこちらへ>
国立感染症研究所HP

